

【開催概要】

開催日時： 10月 30日（水） 10:30～

場 所： 見坂茂範氏 事務所 千代田区九段北

参加者： 見坂茂範氏

地質エンジニア連盟 会長 成田 賢

（一社）全国地質調査業協会連合会 会長 田中 誠

地質エンジニア連盟 会計責任者 重信 純

事務局長 長井 義樹

地質エンジニア連盟（会長 成田賢）は、2025年7月に予定されている参院選比例代表区 自由民主党公認候補者である前国土交通省近畿地方整備局長の見坂茂範氏に推薦状の手渡しをいたしました。手交には、すでに推薦状を発出済みの全地連・田中誠会長にも同席いただきました。

成田会長は「地質調査業の社会的地位確立、処遇改善、分離発注」を要請し、見坂氏は「皆様の課題は、理解している。持続可能な地質調査業となるためには、地質調査業量の増大、諸経費率のアップ、市場単価・技術者単価のアップ、地質調査業のイメージアップ等を実現、夢のある産業に脱皮する必要がある。地質調査業の発展のため力になるつもりである。」と述べました。

地質エンジニア連盟は、持続可能な地質調査業として存続していくことを目指し、10月17日に設立総会を開催し、次期参議院選挙において職域代表として見坂氏を推薦することを決定しました。



地質エンジニア連盟が発足

地質調査業を
夢のある産業に 職域代表議員を支援

地質調査業の政治団体である地質エンジニア連盟が17日に発足した。同日に東

京都内で設立総会を開き、写真(報道発表資料から)、オンラインも併用して関係者が参加。会長には応用地質前会長の成田賢氏が就任した。地質調査業の社会的地位確立のための政治活動の支援や、国土強靱化につながる活動を通じて社会に貢献する政治活動を行うのが目的。職域代表の国会議員である佐藤信秋参院議員や足立敏之参院議員、2025年夏の参院選に立候補予定の見坂茂範氏(前国土交通省近畿地方整備局長)を支援していく。



全国各地の地質調査業の理事長らが、8月に政治団体の設立に向けた「有志の会」を立ち上げていた。25年1月から会員募集を始める。同2月に開く通常総会で役員と年間事業を決定する予定だ。

老朽化への対応や、19年の公共工事業品質確保促進法(公共工事業品質法)改正で地質調査業が法律の対象となるなど役割が大きくなっている状況もある。

事業量の増大や諸経費率・市場単価・技術者単価のアップ、地質調査業のイメージアップなどを現し、持続可能で夢のある産業に脱皮する必要があると判断。法制度による裏付けも含めて行政や関係機関らに強力な働き掛けをしていく必要がある、政治団体を発足し地質調査業に理解ある国会議員を支援することにした。

見坂氏の推薦決める

全地連

全国地質調査業協会連合会(全地連、田中誠会長)は26日、2025年夏の参院選で職域代表者に前国土交通省近畿地方整備局長の見坂茂範氏の推薦を決め、東京都内で天野洋文常任理事が見坂氏に推薦状を手渡



した。推薦状の交付後、天野常任理事や栃本泰浩常任理事らと意見を交わした。

天野常任理事(左から2人目)が見坂氏(中央)に推薦状を手渡した

見坂氏は「推薦状をもらい、身が引き締まる思いだ。地質調査業界との意見交換に携わり、自分なりに地質調査業の課題を把握しているつもりだ。技術者単価は上がっているが地質調査業で働く皆さまへの賃金アップが必要と考えている。業務発注の諸経費も地質調査業に関わる業務もICT、DXなどの経費がかかっていると思う。現場の声を聞きながら諸経費動向調査を踏まえて技術者単価を上げていきたい」と述べた。

さらに「一番大事なのは仕事量を確保すること。公共事業予算の増額に注力する必要がある。建設コンサル、設計業務と分離発注すること常にも言い続けた」と意気込みを語った。